

主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくり ～新聞を活用した『学びたくなる』授業の構想と展開～

糸魚川市立田沢小学校

1 学校の概要

今年度、創立 60 周年を迎えた糸魚川市立田沢小学校（浅野一清校長，児童数 184 名）は，海と山に隣接する自然豊かな地域の学校である。生活科や総合的な学習の体験活動を重視しながら地域と連携した教育活動を構想しており，コミュニティ・スクールの目標でもある「このまちが好き このまちの人が好き 好きなまちをみんなでつくる人」を育てている。



また，グランドデザインにもある「よい授業で学級をつくる よい学級で授業をつくる」という理念のもと，児童が主体的に学習に取り組む姿を目指し，児童のやる気を高める授業改善に取り組んでいる。

2 N I E 実践のねらい

今年度は，N I E の指定を受けて 1 年次の研究・実践である。当校の児童の実態としては，新聞を読む経験が少ない児童が多いことが挙げられる。まずは，「新聞に興味・関心をもつこと」や「新聞を活用することで『学びたくなる』授業づくり」が必要であると考えた。そこで，今年度は N I E の研究主題を「主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくり～新聞を活用した『学びたくなる』授業の構想と展開～」とし，新聞の活用を通して児童のやる気や学ぶ意欲を高める授業づくりを目指した。

3 本年度実践の概要

（1）職員研修の充実

① 7 月 27 日（木）N I E 学習会 講師：川合 紀子 様（N I E マイスター）

新聞の構造や N I E の授業づくりなど，N I E に関する基本的な考え方を職員全員で学んだ。特に，新聞の特性を生かしながら育む力は，まさしく学習指導要領で求められている「思考力」「判断力」「表現力」であることを理解することができた。

② 9月1日（金）NIE学習会 講師：木村 隆 様（新潟日報社）

職員研修で、新聞記者である木村様の専門的な知見から新聞についての理解を深めるとともに、新聞を活用した学習活動についてもアドバイスをいただいた。

また、11月15日（水）には、木村様から5年生に出前授業をしていただいた。国語の学習で、記事を書く上での極意について学ぶことができた。



③ 12月6日（水）「NIEまとめの校内授業研修会」

【授業公開】第5学年 国語科「意見文を書こう」授業者：教諭 須田 寛子
指導者：中平 一義 様

（上越教育大学大学院学校教育研究科教授）

近隣校からの先生方、上越教育大学の院生も協議会に参加。中平教授から「新聞を活用した読解力の育成」についてご指導をいただき、さらにNIEの授業づくりについて研修を深めることにつながった。



（2）新聞に親しむ環境づくり

①「新聞トーク」「新聞タイム」の場の設定

学年の発達段階に応じて、活動を工夫して取り組んだ。また、ミニ研修会で、学級で取り組んだ内容を紹介し合い、バリエーションを広げた。

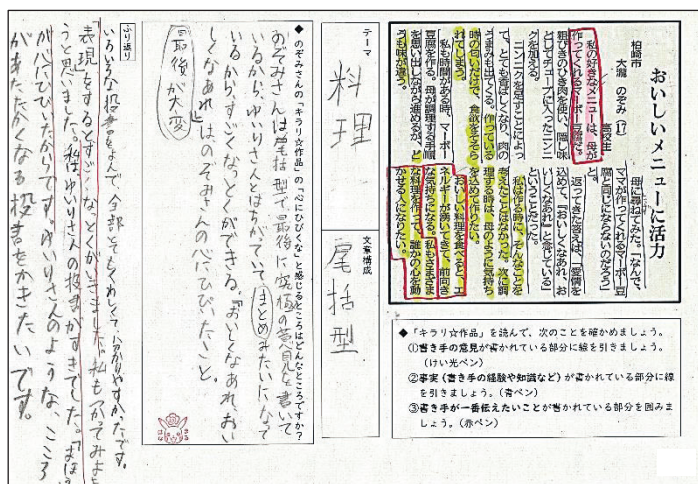
例）新聞しりとり、すてきな言葉探し、新聞パズル、新聞記事感想文 等

②新聞コーナーの設置

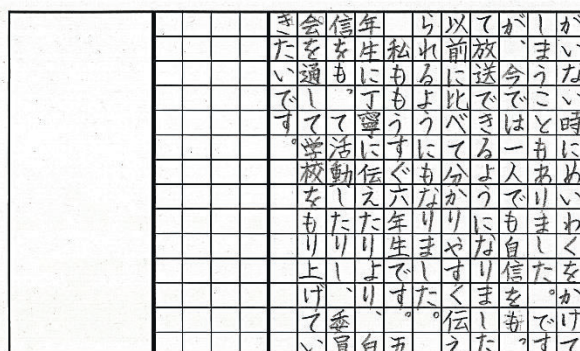
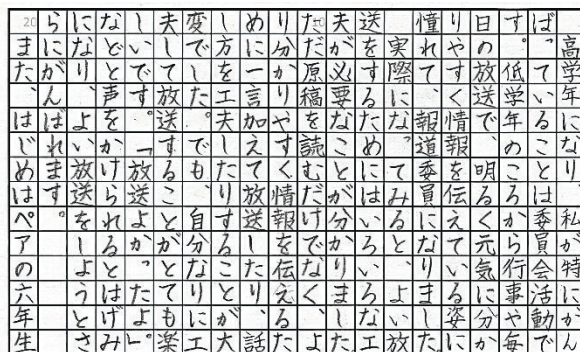
児童玄関ホールに新聞を自由に閲覧できる新聞コーナーを設置した。いつでも児童と教職員が新聞を手にとれる環境を整備した。

④授業の実際

- ・新聞に親しむ活動や投書のスクラップを継続してきたことで、新聞や投書への興味・関心を高めることができた。家で進んで新聞を読んだり、自主学習でスクラップに取り組んだりする児童の姿も見られるようになった。授業の前に、スクラップした投書を参考にして投書の下書きを書いてくる児童もあり、主体的に学ぼうとする意欲と活動への期待感がうかがえた。
- ・「きらきらキラリ」の掲載作品を教材にすることは、書き方のよさをとらえる面でも、投書を書く意欲を高める面でも有効であった。10代の文章は児童にとって読みやすく、内容にも共感しやすいものであるため、文章構成や書き方や表現の工夫を主体的に考えることができた。それと同時に、数ある掲載作品の中から、ねらいに沿った教材を選ぶ難しさも感じた。
- ・「思いを伝える投書のコツ」を基に投書作品のよさや工夫を見付ける活動では、「意見」と「事実」に色の異なるサイドラインを引き、事実と意見が結び付けて書かれていることをとらえたり、投稿者が一番伝えたい「究極の意見」が書かれている部分を見付けて、文章構成をとらえたりした。視点をもってじっくりと文章を読み取る活動は、児童の読解力の向上につながると感じた。また「心に響く表現の工夫」として、児童は「かぎカッコを使うと伝えたいことが強調できる」「経験談を具体的に書くと読み手が共感できる」「続きを読みたくなる書き出しが大事」などの工夫を見付けることができた。授業後の振り返りには、作品から見付けたよさを自分の投書に生かそうとする具体的な記述が多く見られた。



掲載作品から見つけた書き方のよさ



完成した児童の投書作品

(2) 1年 国語科「がっこうでみつけたよ」 授業者：教諭 渡邊 紗矢

① ねらい

- ・学校で見付けた動植物（ヤギ）を観察し、気が付いたことを書くことができる。
- ・グループで話し合い、「ヤギさん新聞」に載せる記事を決めることができる。

② 主な手立て

ア：児童の意欲を高める対象の設定

新聞のテーマを、1年生が生活科で飼育しているヤギの「はるちゃん」に設定した。大好きなヤギの観察を通して、児童の中に溜まっている伝えたい思いを書く意欲に生かしたいと考えた。

イ：相手意識と目的意識を明確にした活動の設定

単元のはじめに、児童に「ヤギさん新聞」を学校内に掲示して全校児童に読んでもらうことを伝えた。自分たちの作った新聞が読まれることは、児童の意欲向上につながると考えたからである。また、他学年が読んで分かりやすいものにしなければならないので、児童の話し合いの必然性が高まることを期待した。

ウ：N I Eマイスターによる出前授業

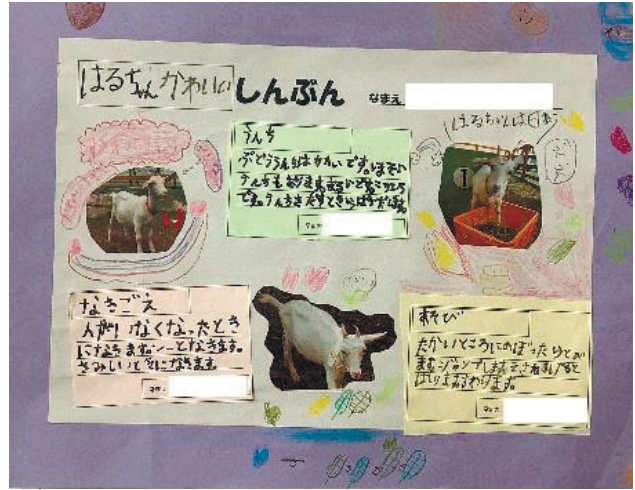
本単元を学習する前に、N I Eマイスターを「新聞の先生」としてお招きし、新聞の学習を行った。事前に新聞を作る経験をすることで、「ヤギさん新聞」づくりの活動にスムーズに入れるようにした。

③ 授業の実際

- ・「記事決定シート」を活用し、友達と協力しながら主体的に記事づくりができるようにした。また、余白スペースを作っておくことで、学びの広がりが見られた。「分類が四つでは足りない」→「上のスペースを使って自分たちで分類しよう!」と、主体的に活動を進める姿が見られた。
- ・分類の要素が、「かお、足、うんち」など部分的なものであったので、「かわいいところ」など、自分の思いを伝えられる項目にするとよりよかったと考える。「自分の思いを伝えるもの」＝「新聞の見出し」につながっていく。
- ・記事を分類することに時間がかかってしまい、担当の記事を決める話し合いの時間を多くとれなかった。どのような理由で記事を決めたのかをもっと掘り下げて聞くと、より学びを深めることができると考える。



付箋に書いた記事を分類する児童



完成した「ヤギさん新聞」

5 成果

- これまで新聞に触れた経験の少ない児童が多かったため、今年度は「新聞トーク」や「新聞タイム」の活動を行い、楽しみながら新聞に親しむことで、興味・関心を深めていくことを目指した。継続していくと、進んで新聞を読んだり、家庭学習で新聞記事のスクラップに取り組んだりする児童の姿が見られるようになった。
- 外部講師を招いて行った職員研修を通して、N I E実践の基礎について理解を深めることができた。研修する前は、N I E実践は難易度が高いと感じる教職員が多かったが、学年の発達段階や学習の目的に応じたさまざまな活用アイディアがあることを知り、とても有意義であった。また、これまで行ってきた授業の中にN I E教育の要素や視点が含まれていることを知り、新聞から積極的に教材を探したり、授業を構想したりして、日々の実践に生かすきっかけとなった。

【2年次に向けて】

- ・今年度の実践を全職員で共有することで、全校児童が楽しみながら新聞に触れ、主体的に学ぶことのできる授業づくりや環境づくりを充実させていく。
- ・今年度はN I Eの授業研究は国語科のみだったが、来年度は教職員の専門性や課題意識を生かしながら、他教科・他領域に広げていきたい。

(須田 寛子)